



「もうこはん」って何のことなの

「児斑」といわれているもののこと

赤ちゃんや小さな子どもの、背中からこし、おしりにかけて見られる、うっすらとした青いぶち（はん点）のことを、以前は「もうこはん」といっていました。

白人の赤ちゃんや小さな子どもには見られないことから、日本人のような人種に見られる特徴だとされて、「蒙古斑」とよばれていたのです。

しかし、蒙古人という、特定の民族に失礼だということで、今では「児斑」とよぶようになりました。

児斑は、赤ちゃんほどはっきり自立ち、年をとるにつれて消えていきます。

実は、白人（白色人種とよばれるヨーロッパ人など）の赤ちゃんにもあるのですが、白人では、メラニンの量が少ないため、見られないのだそうです。

「児斑」ができるのは

児斑は、赤ちゃんがお母さんのおなかの中で、育っているあいだに、皮膚の色をつくりだす細胞が、体全体にちらばっていったときの残りなのです。

ですから、成長するにつれて必要がなくなり消えていくのです。（監修・保志 宏）

